

今月のテーマ ● あやしいメールに注意

LPA
こやま あきこ
小山 明子 さん



● パソコンなどに届く不審なメール

還付金詐欺やオレオレ詐欺など、電話による特殊詐欺被害が毎日のように報道されていますね。わが家は迷惑防止録音機能があるおかげか、不審な電話はほとんどありません。

しかし、パソコンなどには不審なメールが頻りに送られてきます。相手方は通販サイト、銀行、カード会社、運送会社など誰でも知っている会社を名乗り、「至急・重要」などの文字が件名にあります。内容は「アカウント情報に不備があります」「お支払い方法に問題があります」「アカウントが悪用されました」がほとんどです。

● あやしいメールの特徴

特徴として日本で使用されない漢字があったり、ゆうパックと書いてあるのに一般の運送会社を名乗ったりと違和感があるものが多いです。そして「情報を更新してください」と誘導してきます。これらはクレジットカードやネット銀行の情報を入力させるフィッシング詐欺です。

また、スマートフォンには「〇〇会員様おめでとうございます」「懸賞に当選しました」等のメールが届きます。私は基本的に登

録のないメールアドレスは詐欺メールと判断しています。(迷惑メールに登録しますが、同じような内容が他のメールアドレスから届きます)

● 不審なメールには返信しない

メールアドレスの変更も選択肢としてありますが、最近の技術にはアルファベットと数字をコンピュータで組み合わせる勝手にメールを送りつけてくるものもあるそうです。(メールアドレスが漏洩し、発信元から連絡がある時もあるようです)

私は不審なメールは絶対に返信しない、そして迷惑メールに移動又は削除しています。もし、不審なメールに返信した・不明な出金や支払いがあった時は、直接カード会社や金融機関に問い合わせをしてください。消費生活センター(電話番号188)や警察も相談に乗ってくれます。

メールによる詐欺は電話による詐欺より平均被害額が少ないのでニュースではあまり見ませんが、実は被害総額は年々増えています。誰もが被害に遭う恐れがありますが、自衛する事も必要です。日々情報をアップデートして自分自身の財産を守りましょう。

お問い合わせ | コープぎふ LPAの会事務局 TEL 058-370-6713 月～金曜日 9時～17時(土日休み)

2023年度 | 第3回 理事会 だより (8/9)

1 7月期決算について承認しました

単位：百万円

7月度事業結果	7月実績	予算差	累計実績	予算差
商品の供給高	2,329	-15	9,321	-60
総事業高	2,410	-16	9,630	-59
事業経費	517	-28	2,058	-93
経常剰余金	46	20	267	78
当期剰余金	32	14	187	54

組合員数 258,544名 計画比 99.6% (加入817名)
出資金 48億4,862万円 一人当り出資金 18,753円

2 「MUJI」ブランド(無印良品)の新規導入について

10月2週の商品案内より、MUJI別冊媒体(8ページ仕立て)を導入し、無印良品の取り扱いを開始します。創刊号では、食品は、レトルト商品・フリーズドライのスープ・お菓子など40種類、生活雑貨は、キッチン用品・台所消耗品・洗濯用品・基礎化粧品・靴下など、85種類取り扱い。いつでも注文カタログ同様、次回MUJI別冊媒体が更新されるまで、いつでも注文できます。

3 2023ピースアクションinヒロシマ・ナガサキ参加について

被爆体験の継承や核兵器のない世界への思いを共有する場として毎年開催されている「ピースアクションinヒロシマ・ナガサキ」に、4年ぶりにコープぎふから代表15名が参加しました。8月4・5日の広島に10名、7・8日の長崎に5名参加し、資料館の見学・被爆の証言・平和講和・朗読会などを行いました。(詳しくはP13でお知らせしています)



4 リデザインプロジェクト応援委員としての支援について

リデザインプロジェクト2023に応援委員として登録し、支援を行います。リデザインプロジェクトは、「作り手」と「使い手」がつながり、地域と社会に貢献できることを目的に活動されています。支援の方法は、販売場所の提供として店舗の店頭などでブースを設置し、作品を販売できるようにします。



リデザインプロジェクト
公式HP

教えて先生!

健康講座

今月のテーマ

認知症について

今月の先生紹介

かいぬま さとし
貝沼 諭 氏
長良メンタルクリニック
院長



1. 認知症とは

認知症とは、認知機能低下がみられ日常生活に支障をきたす状態のことです。まず完治は不可能、症状は少しずつ進行する、様々な原因があるなどの特徴があります。

2. 認知症の種類

一般的にみなさんが認知症といわれるのは、アルツハイマー型認知症だと思います。代表的な疾患で、脳の機能異常であり、「進行を遅らせる薬がある」という特徴があります。半分以上をこのアルツハイマー型認知症が占めると言われます。

次に多いのは、脳血管認知症です。これは、脳梗塞や脳出血など、脳の器質的な病変が原因で認知症になるものです。薬はなく、脳の病変の再発を防止することが最重要です。

次にレビー小体型認知症ですが、統計により違いはありますが5%程度と考えられます。日本人が発見したと言われ、簡単に言うと認知症とパーキンソン病が合わさったような病態です。

その他には、割と若いときに発症し反社会的行為を行う前頭側頭葉型認知症もあります。

3. 検査

脳の検査、できれば頭部MRIを行いたいです。最近では計算ソフトも導入され、アルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症の診断がある程度できます。また長谷川式やMMSEなどの質問紙法や、高価で被爆しますが脳血流シンチという方法で脳の血流の低下部位を見て、ある程度診断できることもあります。

4. どの科にいくべきか?

診療担当は、神経内科、脳神経外科、精神科です。診断に関しては、個人的な意見ですが神経内科が得意と考えられます。脳神経外科は外科ですから認知症に積極的ではないですが、医師によっては診療しています。精神科は、認知症の中でも随伴症状のBPSDが強い人(興奮、いらいらなど)が得意です。

5. 認知症の薬

現在日本で認可されている薬は4種類です。ただ、そのうち3種類は似た作用で同時に使用できません。1つだけ他の薬剤と併用できる薬があります。一番古い薬は、アリセプトという薬でかなり有名です。おとなしい人向けで、1日1回使用です。その後時間が経過し、1日2回服用のレミニール、貼る薬であるリバスタッチ、唯一他の薬剤と併用できるメモリーができました。メモリーは攻撃的な人向けです。ただ、上記の4剤は全てアルツハイマー型認知症の進行を抑えるのみの作用です。アリセプトのみレビー小体型認知症にも使用可能です。

6. 認知症の経過

認知症は残念ながら徐々に悪化し、最後には家族もわからなくなってしまいます。しかし進行を抑えることは可能ですので、早期に発見、薬を服用することが重要です。経過中に随伴症状がみられ対応できない場合は精神科受診が望ましいです。

今は介護保険が充実していますから、本人、家族ともめないうような積極的に介護サービスを使うと良いかと思えます。



わたしのひとこと
1人暮らしですが、娘家族とペア個配で、娘は週に2度はわが家で一緒に料理をして半分以上持って帰ります。気持ちは同居しているような生活です。(70代/大垣市 ミッシーさん)



わたしのひとこと
33歳の時から始めたダンス。ずっと同じ先生の所で頑張っています。12月に発表会があり、6曲覚えて踊ります。毎年の楽しみでもあり、緊張する出来事です。(70代/垂井町 ガバちゃんさん)